



## 2021年度より『がん教育』が義務化されます！

世田谷区教育委員会から依頼があり、小学校や中学校で  
がん関連の専門・認定看護師が がん講和 を行ってきました。



世田谷区には世田谷区総合支所・世田谷保健所が進める「健康せたがやプラン（第2次）後期」があります。この中で主要な健康課題への対応として、重要施策として、以下の4つを掲げています。

1. 「生活習慣病対策の推進」
2. 「食育の推進」
3. 「心の健康づくり」
4. 「がん対策の推進」

また、世田谷区教育委員会では、特に1【がん教育】2【喫煙防止教育】3【3快プログラム】の3つの事業に重点をおき活動が行われており、当院では、東京都がん診療連携協力病院として、2017年度よりがん教育の協力を行っています。

### ■TOPICS 今回のテーマ

今回は「遺族を対象に終末期の実態に関する初の全国調査」と「高齢者のがん治療」についてです。



## ◆遺族を対象に終末期の実態に関する初の全国調査～国立がん研究センター～

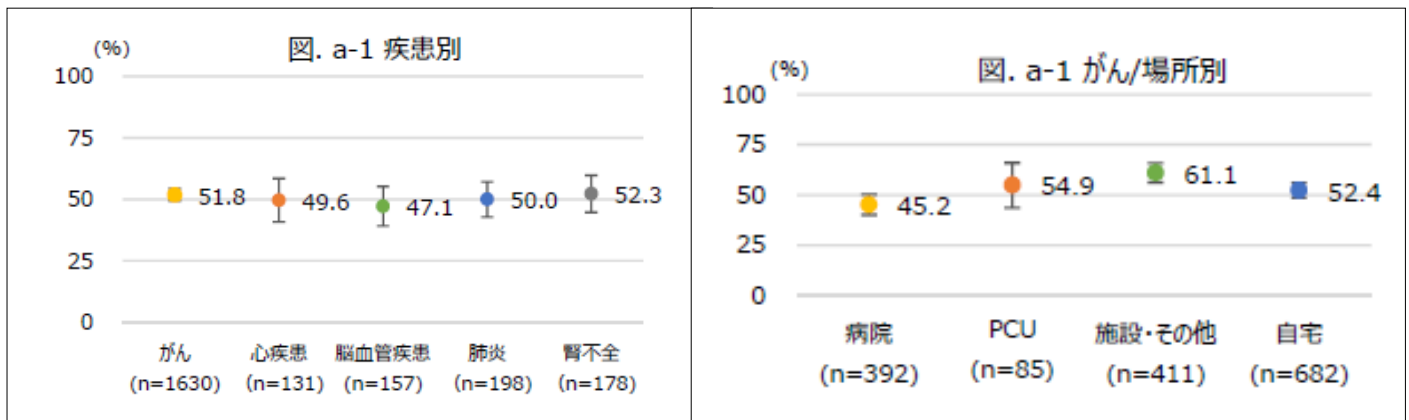
2018年2月から3月に国立がん研究センターで、厚生労働省の委託事業として、がん患者等が亡くなる前に利用した医療や療養生活に関して、全国の実態を明らかにするための予備調査を実施されました。

このような、亡くなる前の状況を全国的に調査するのは初めての試みでした。2019年には、さらに全国的に調査される予定となっています。

引用 <https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/sup/project/090/result/index.htm> 国立がん研究センターHP

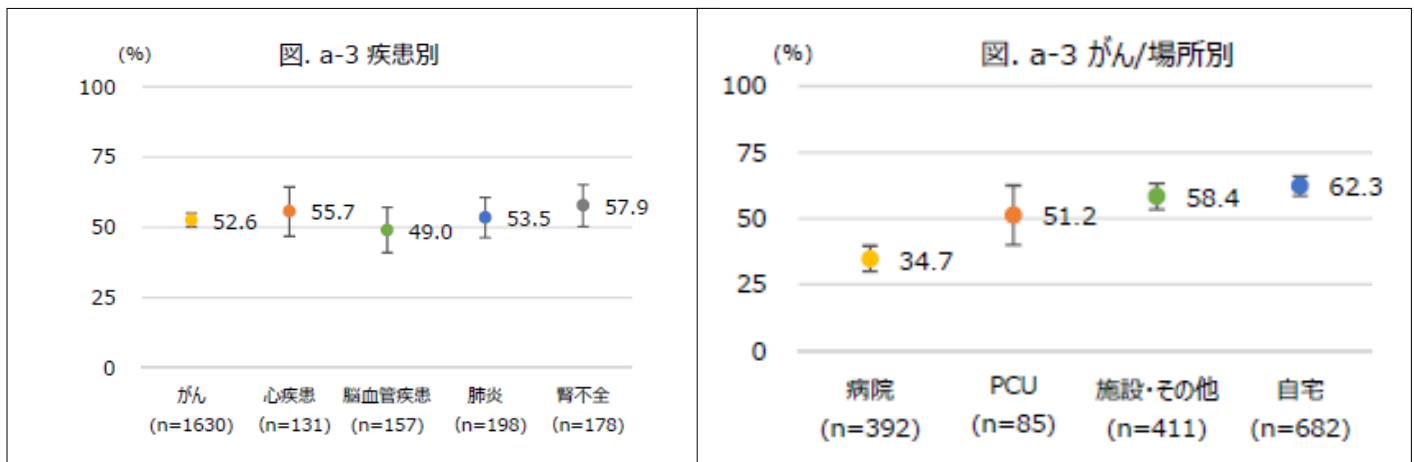
### 【痛みなく過ごせた】

疾患別の「痛みが少なく過ごせた」割合は47.1%～52.3%であった。各疾患の療養場所別では、がん、心疾患、肺炎、腎不全の場合、病院（36.4%～46.4%）と比較して、施設（50.0%～61.1%）や自宅（52.4%～63.1%）で療養していた患者は、該当割合が高い傾向がありました。



### 【穏やかな気持ちで過ごせた】

疾患別の「穏やかな気持ちで過ごせた」割合は、49.0%～57.9%であった。各疾患の療養場所別では、がん、心疾患、肺炎、腎不全の場合、病院（29.6%～42.9%）、施設（54.6%～64.5%）と比較して、自宅（62.3%～75.4%）で療養していた患者は、該当割合が高い傾向がありました。



# 高齢者のがん治療



がん治療の分野では、有害事象の少ない薬物療法の開発や副作用対策の向上などにより、身体的機能低下が認められている高齢者でも適応可能な治療が増えてきています。

## ◆高齢者とは何歳以上か？

- がん治療においては「高齢者」が何歳以上を指すのか、明確な定義はありません。一般的には65歳以上が「高齢者」で、すべてのがん患者のうち、65歳～75歳未満が29%、75歳以上が41%を占めています。がんという病気は高齢者の病気であるといえます。
- 現在の65歳は、仕事を続ける人や趣味を満喫し活動的に過ごす人など、高齢者の社会参加が増えています。日本の臨床試験では70歳～75歳以上を高齢者と設定していることが多いです。

## ◆基本的な考え方

- 「高齢者」では暦年齢（実年齢）ではなく、想定される治療に身体の状態が耐えられるかという判断が大切になります。身体機能が低下しているなかでのがん治療は、かえって苦痛を伴うだけの治療になることがあるからです。
- 75歳を超える「高齢者」では「標準治療」が確立していません。身体や精神状態を把握し、がんの種類や病期、患者・家族の希望を取り入れながら情報を集め、治療法を決定していきます。

出典：<https://www.sochr.jp/ideal-care/aged.html>

### がん化学療法時における看護のポイント

#### PS、認知機能・社会的役割・家族からの情報の把握

⇒治療に耐えられるかどうかアセスメント

#### 意思決定支援

⇒「他の家族に迷惑をかけてはいけない、かけたくない」などといった理由で希望する治療を選択しない可能性もある。地域医療や介護サービスで解決可能な場合もあるため患者の思いに耳を傾けることが大切

#### 治療上の注意点など、説明方法の工夫

⇒治療時に繰り返し説明する。資料を活用し、必要時家族へも指導

#### 血管外漏出予防

⇒血管アセスメント、確実な固定、食事前後やトイレ移動など体動前後の観察

#### 転倒予防

⇒環境調整、末梢神経障害による転倒リスクを把握し対策



出典：国立がん研究センター看護部編：国立がん研究センターに学ぶがん薬物療法看護スキルアップ、南江堂、2018



■ 今回のオススメの書籍をご紹介します！



認知症をもつがん患者のケアについて特集されています。手術、化学療法、放射線治療、BSC など治療期に応じたケアがわかりやすく解説されています。

「がん看護」  
出版社：南江堂  
発行年：2019年1月



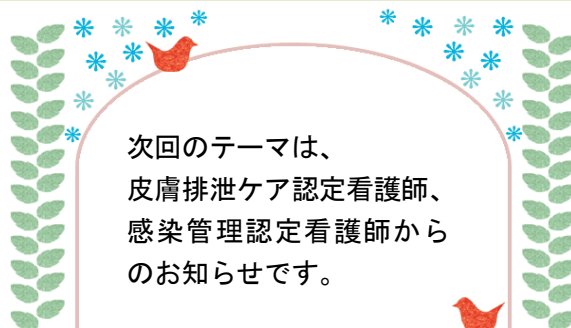
あらゆる治療期のがん看護基準となっている書籍です。病態から詳しく解説されています。

「がん看護コアカリキュラム」  
出版社：医学書院  
発行年：2017年02月  
編著者：一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ



編集後記

看護師をはじめ院内・外の多くの方々に私どもの活動を知っていただき、ご相談いただくことで、患者さんによりよい看護をご提供できればという思いでおります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



次回のテーマは、  
皮膚排泄ケア認定看護師、  
感染管理認定看護師から  
のお知らせです。

公立学校共済組合 関東中央病院 看護部

